

キャラクター名  
樺彩 奏美 (かさい かなみ)

プレイヤー名

シンドローム	ソラリス ウロボロス	ワークス	レネゲイドビーイングC	カヴァー	支部長
オプション	ブラム=ストーカー	年齢	26	性別	女
覚醒	渴望	衝動	加虐	初期侵食率	41 %
出自	一般家庭	経験	殺人強盗事件	邂逅	その後

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	26
肉体	1	0	0			1	行動値	6
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	6
精神	3	1	0			4	戦闘移動	11
社会	3	0	0			3	全力移動	22

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	14		交渉	1	
回避			知覚	1		意志	1		調達	9	
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品		合計装甲:	0	合計回避:	0
従者の回路		ロイス			
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイム	消費	
触媒	P 執着	N 偏愛			
黄昏の支配者	P 執着	N 偏愛			
両親を殺した男	P 尊敬	N 恥辱			
	P	N			
	P	N			
	P	N			
	P	N			
最大財産P:	24	残り財産P:			

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
ヒュムズ`ネバー`	1	+5	常時	至近	自身	-	RB	
効果:	衝動判定+LV個							
愚者の兵装	4	+4	常時	至近	自身	-	従者	
効果:	専用装備LV個獲得							
白:限界突破	2	6	セツ	至近	自身	-	80	
効果:	ラウド`中ラウド`1回を2回に `リフレ`							
従者の行進	1	5	セツ	至近	自身	-	D0イス	
効果:	赤色の従者を使用 `リフレ`Lv回							
青:斥力跳躍	1	2	マイ`	至近	自身	-	-	
効果:	移動+Lv×5 飛行							
オリジン:レジェンド	5	2	マイ`	至近	自身	-	RB	
効果:	シーン中精神達成+LV×2							
さらなる力	★	5	Xジ`ャ`	至近	単(変X)RC(20)		80	
効果:	行動済を未行動に `ラウド`1回							
狂戦士	2	5	Xジ`ャ`	視界	単体	RC	80	
効果:	C値-1(下限6) LvD×2追加							
赤き従者	1	5	Xジ`ャ`	至近	自身	-	-	
効果:	従者作成 `シーン`1体 判定`グ`イス-3							
血の絆	1	3	Xジ`ャ`	至近	自身	-	赤色	
効果:	同時使用で従者が持続 `リフレ`Lv回							
虚:ナーブジャック	★	4`+2	Xジ`ャ`	視界	単体	RC	120	
効果:	意志と対抗しXジ`ャ`を行わせる							
紫:領域の盾	2	7	オート	至近	単体	-	-	
効果:	同意人を庇わせる `シーン`Lv回							
リフレックス	3	2	リアク	至近	自身	-	-	
効果:	C値-Lv 下限7							

《概要》  
 【成し遂げる者】、数々の困難な任務を成し遂げてきたことからそう呼ばれるようになった。  
 そんな、彼女だがそれ故に殉職した仲間も多い。  
 「こんな荒れた今だからこそ、私は散った仲間たちのためにもこの世界を治めたいのです」  
 そんな彼女だからこそ支持者もそれなりに多い。

その裏、実際の殉職理由は彼女による過剰なレネゲイドの活性化、大半のオーヴァードはその侵蝕に耐え切れずジャーム化している。  
 しかし、彼女の任務に真摯でかつ普段の気配りや面倒見の良さや正義感のある姿から、その事案の申告は嫉妬による失墜を狙った画策であると思われ、信用されず棄却された。

(何事も騙されるほうが悪い、私は成り上がって全てを支配してやるアイツのように、、、)

《来歴》  
 過去に家族、財産を全て奪われた経歴を持つ。  
 そんな顔も見えなかったソイツは  
 「何事も自己責任、己の運命と力のなさを呪うんだな」  
 それが彼女が聞いた最後のセリフだった。

その後、私は何故か死ぬこともなく一命は取り留めた。  
 犯人は結局捕まることもなく、やがてそんな事件も人々の記憶から消えていった。

